

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【園芸作物・果樹、東海農政局】

愛知県 JA西三河（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7～R9）

- 管内4カ所の野菜・果樹選果場を再編し、いちご、きゅうり、トマト、ミニトマト、なす、いちじく、梨の選果機能を集約した施設を新設することで物流、労働生産性等の課題解決を図る。
- いちごではスマート選果機を導入することで選果作業を省力化するほか、いちご・きゅうりではデータを活用した栽培管理、環境モニタリングシステム及び出荷予測により、有利販売と物流の効率化を目指す。

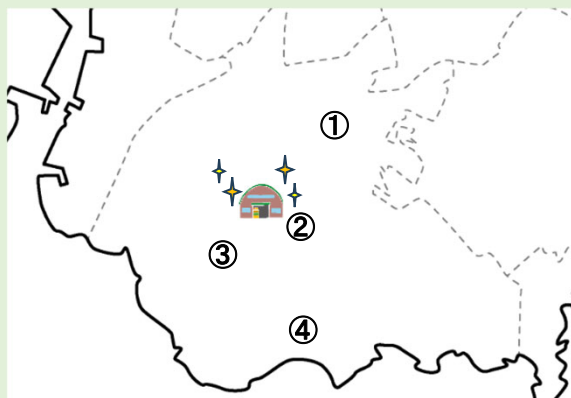
現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 野菜及び果樹の集出荷施設は老朽化しており、維持費及び修繕費が増大（700万円～1,200万円/年）し、施設の運用、維持が厳しい状況にある。
- 古い設備では消費者ニーズに応じた商品提案が難しく、施設が点在することによる輸送費や人件費のコストも課題となっている。

【再編集約の内容】

- 管内4つの選果場を再編し、1カ所に機能を集約した総合集出荷場を新設し集約する。



- ① あぐりセンター高河原
(なす、梨)
- ② あぐりセンター小牧
(いちご、いちじく)
- ③ あぐりセンター池田
(きゅうり)
- ④ 吉田選果場
(トマト、ミニトマト)

野菜果樹総合集出荷場
(いちご、きゅうり、トマト、
ミニトマト、なす、いちじく、梨)

再編集約・合理化等で期待される効果

- 選果機能の集約と合わせ、老朽化した既存選果ラインが廃止でき、修繕費や運用コストが抑えられ設備運営の収支改善が図れる。
- きゅうり選果機の導入により、処理能力を地域平均の2倍以上に向上、いちごのスマート選果機の導入により、パック詰め時の処理時間を3割以上削減し、消費者ニーズに応じたパッキングの実現による契約数量の増加が見込める。
- 集出荷施設で得られたいちご・きゅうりの選果データの生産者への共有と、環境モニタリングシステム及び出荷量予測を活用した栽培との連携により、有利販売や効率的な物流の実現を目指す。



いちごのスマート選果機



環境モニタリングシステム
「あぐりログ」

他産地へのメッセージ

- 日頃から現場関係者と丁寧なコミュニケーションを心掛けており、事業説明会を部会単位で何度も行った。関係者全員が産地の課題や将来像を共有できたことが、スムーズな合意形成に繋がった。
- 事業計画の作成が生産者との信頼関係を築く良い機会になる。